



さとやま

今月の見どころ

夏のいきものたち



上の写真は、センターゾーンにあるコナラの木です。たくさんの昆虫たちが樹液に集まっています。カブトムシやクワガタ等の甲虫や、キタテハやコムラサキなどの蝶が見られます。ただし、スズメバチもやってきます。むやみに人を襲うことはありませんが、振り払うなど脅かさないように注意して観察して下さい。

また、7月にご紹介した夏の花に加え、変わった形のクサギや、目立たないイヌザンショウ、高い梢に咲くカラスザンショウ、小さなスズメウリ、夜中に咲くカラスウリ、穂状のヤブマオ等の花が見られます。

ピオトープ上の池の近くには、カラマツソウの仲間のアキカラマツが花をつけます。

万灯山では、毎年8月14日に貝吹の「かぎ万燈」の行事がありますが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大のため中止が決定されました。いつもなら姿を消すママコナやオケラが長く楽しめそうです。

こんな夏の生き物たちを探して、里を散策してみませんか。



イヌザンショウ



カラスザンショウ



スズメウリ



カラスウリ



ヤブマオ



アキカラマツ



ママコナ



オケラ

里の生き物紹介

クサギ

8月、里を歩いていると、強い芳香が漂ってくる場合があります。付近を探すと、面白い形の白い花をつけているクサギの木を見つけることができます



クサギは、日当たりのよい場所を好む落葉樹です。里でも、センターゾーンからトンボの里、万灯山エリアまでで広く見られます。葉にビタミン剤のような独特なおいがあることからその名がつけました。しかし、若葉は茹でて食べることができ、においも消えるようです。

花は枝先に集まって咲きます。白い花弁はがくから長く突き出し、その先で開きます。4本の雄しべと1本の雌しべはその中からさらに突き出しています。昼間はアゲハチョウが好んでよく訪れています。

この花がどのように咲き、実ができるのか変化を追ってみました

つぼみのときは、ぴったりくっついた5枚のがくの中に花が入っていて、花弁の下の柄が伸び、がくから外に出たあと花弁の先が開きます。



花が咲いてだいたい1日目は、雄しべが上を向き花粉を放出する雄性期、2日目は、雄しべがしおれ雌しべが上を向く雌性期です。雌性期の雌しべの先が開いているのがわかるでしょうか。これは、同じ花の花粉が雌しべにつかないようにする工夫です。

花が開いて3日ほどすると、花弁と雄しべ、そして雌しべが取れて、がくの中には子房だけが残って成長していきます。



里では、つぼみのがくの色が薄い緑色のものが多いですが、赤いものもあるようです。花が終わる頃には紫がかった色になり、その中で実が成長していきます。秋になり実が十分に育つと、がくが開きますが、その頃には鮮やかな赤色になり、実は熟すと鮮やかな青色になります。この赤と青のコントラストはとてもよく目立ち、どちらも鳥が好きな色とされています。実を鳥に食べさせて、種子を遠くへ運んでもらうためのようです。



ところで、葉に独特のにおいがあるのは、虫や獣による食害を防ぐためと言われていたのですが、ときどき虫食いの穴があるものがあったり、虫こぶができていたこともあります。

写真の虫こぶは、クサギハコブフシと呼ばれ、フシダニというダニの仲間によって作られるものです。

このように、完全に防ぐことはできないようです。

さとやまニュース

最近、センターに新しい展示物が2つお目見えしました。

キロスズメバチは、街中でもよく見られ、人工的な場所にも巣を作ります。毎年、はじめは1匹の女王バチが巣を作り始めますが、秋頃には内部に何段もの巣版のある巨大なものになります。初めのページでも触れましたが、普段はそれほどではありませんが、巣の近くでは攻撃性が強くなるため注意が必要です。秋の終わり、新王と女王が生まれると巣は役目を終えます。



ウナギは、成魚が海に出て産卵し、孵化した幼魚が変態を繰り返しながら透明なシラスウナギとなって、川に帰ってきます。その後5~10年かけてお馴染みのウナギの姿になります。

最近シラスウナギの漁獲量が減り、絶滅危惧種に指定され、天然のウナギは貴重なものになっています。

7月の行事紹介



講座「里山のキノコを学ぼう」を石川まゆみさんを講師に迎え、7月26日(日)に開催しました。

前日の大雨もあってか園内に繁殖したキノコは少なく、トンボの里まで行って20種を採取できました。

キノコは、「色」「形」「模様」「状態」などの特徴で見分けるそうです。受講者は、ルーペや中には一眼カメラを使い細部まで観察していました。

図鑑でよく似たキノコを確認できたら、よく記録しておくことが大切と学びました。

8月の行事予定

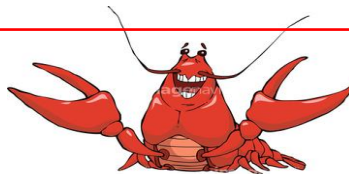
2日(日)	水辺のいきもの探そう	50名	AM9:30~11:30	神本 晃
-------	------------	-----	--------------	------

◎内 容 ~小川に住む生き物たちをタモなどで捕まえて観察します。

9日(日)	夏休み昆虫教室	50名	AM9:30~11:30	山口 信夫
-------	---------	-----	--------------	-------

◎内 容 ~木々に群がる昆虫を実際に手で触れて観察して学びます。

8月は、「ザリガニ釣り」を開催するよ。午前9時から午後4時まで釣り放題です。それも「手ぶら」でサオやエサも無く気軽に釣りができます。お持ち帰りはできませんが1回30円で何匹でもOKです。



9月の行事予定

5日(日)	“鳴く虫の不思議”虫笛をつくろう	20名	AM9:30~11:30	磯谷はるみ
27日(日)	ココロの通う絵手紙つくろう	20名	AM9:30~11:30	市川百合子

◆ 参加受付は、各講座の3週間前の午前8時30分から先着順で来園及び電話にて受付します。また、申込は本人、もしくはその家族までとします。

◆ 天候や少数(6名以下)などによる講座の中止、又は受講内容を変更する場合があります。

◆ 原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。

◆ **コロナ禍の状況により講座を「中止」する場合があります。**

西尾いきものふれあいの里

◆ ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆ 休 日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4]

◆ 発 行 西尾市環境部 環境保全課